2014年９月１日／発行：「ラコルタ」吹田市立市民公益活動センター

Newsletter VOL.8

出会う→集う→育てる→実る

ラコルタ

吹田市立 市民公益活動センター

●ラコルタの方針●

①市民公益活動を行うNPOやボランティアの活動を支援する
②社会に役立つことを始めようとする市民や事業者を増やす
③市民公益活動団体と教育・研究機関や行政との間で交流を深め、情報を共有する
④市民公益活動を支援できる人材の育成を図り、協働によるまちづくりを推進する

7月17日(木) 外国人学生と市民公益活動団体が交流

NPO法人ワールドキャンパスインターナショナル（WCI）が、世界各国の若者を対象に、毎年日本国内のスタディツアーを行っています。吹田市への訪問は「吹田国際隣人グループSING」が企画運営しており、今年はその１日を、ラコルタと市民公益活動団体との協働で様々なアクティビティを提供しました。当日は外国人学生の参加が、何と38名！まずはアイスブレイクで交流、お昼は「カフェたんぽぽ」の協力で、お好み焼きと広島焼きを全員で作りました。午後は平和祈念資料館で、原爆をテーマとしたアニメ映画「太陽をなくした日」を鑑賞。

前田稔監督と質疑応答をしながら平和について考える時間をもちました。当日運営は日本在住の外国人の方を含め12名のボランティアに協力いただき、楽しく、時には真剣に、国境を越えた交流のひとときとなりました。

オコノミヤキ VERY GOOD!

アイスブレイクで交流

平和の大切さをかみしめた映画会でした

REPORT

7月25日(金) 認知症サポーター交流会

本年2月から、地域包括支援センターと共催で「認知症サポーター交流会」を4回開催しました。この交流会には、認知症サポーター養成講座と認知症サポーターフォローアップ研修を受講し、「認知症の方とその家族のために何かしたい！」と思う方が集まっています。活動ごとにワークショップ形式で内容を検討しました。最終回の7月25日(金)には認知症家族の会「吹田コスモスの会」の講演を聞き、家族の想いを直接知ることができました。交流会からは3つの活動グループが生まれ、「サポーターのスキルアップ」をめざした高齢者施設での研修、「当事者や家族の憩いの場作り」に向けた地域サロンの見学、「オレンジリング(認知症支援の目印となるブレスレット)の周知」を行うため、東山田夏祭りでのPR活動などに取り組んでいく予定です。ラコルタはこれからもこれらのグループをサポートしていきたいと思います。

7月26日(土) 「ちょっと気になる裁判員制度」

ラコルタでは、様々なテーマについて語り合う意見交流会「テーマカフェ」を毎月開催しています。7月は「裁判員制度」を取り上げ、「“裁判員ACT”裁判への市民参加を進める会」の川畑恵子さんをゲストにお招きしました。ゲストからは、自身が裁判員候補者に選ばれた経験をお話しいただき、参加者からは、「裁判員制度の言葉自体は知っていても、実際にどのように行われているのか」、「どこまで市民感覚が反映されているのか」、「裁判員を務めた人のアフターケアが必要」といった疑問や意見などが出されました。アンケートからも「時間が足りなかった」という声があがるほど、様々な意見が飛び交い、裁判員制度について考える貴重な場となりました。

出会う→集う→育てる→実る

ラコルタ

吹田市立 市民公益活動センター

からのお知らせ

どなたでもお気軽にご参加ください。

※費用が明示されていないイベントは無料。
※申込期限が書かれていない場合は当日まで。

▼お申込み・お問い合わせは電話かFAXでラコルタまで。
電話：06-6155-3167　FAX：06-6833-9851

9月20日(土) ほうしゃのうと暮らしのおしゃべり会

放射能について東日本大震災による自主避難者の方と一緒にお話しませんか？

●とき：13:30～16:30　●定員：先着２０名
●費用：１家族＝100円

9月21日(日) ＣＢ・ＳＢ 成功のヒケツ

ビジネス型社会貢献活動（ＣＢ・ＳＢ）の事例をもとに、フォーラム形式で学びましょう。

●とき：14:00～17:00　●定員：先着50名

9月25日(木) 10月23日(木) 11月27日(木) 自分にあった ボランティア活動を見つけませんか？

～市民公益活動入門講座～

●とき：いずれも13:30～15:00
●定員：各先着10名
●対象：始めてみたい方や理解を深めたい方

テーマカフェ

毎月テーマを決めて参加者同士で気軽にお話しましょう!

9月27日(土)「ネオシニアの生き方について」
ネオシニア世代(団塊より少し下の世代)の生き方や働き方について考えます。
●とき：18:00～20:00　●定員：先着２０名
●対象：関心のある方はどなたでも

10月25日(土)「終活について」
「終焉」を見つめ準備することで、今をよりよく生きようという「終活」について考えます。
●とき：10:30～12:00　●定員：先着10名

11月22日(土)「子どもの貧困について考える」
子どもの貧困の現状や事例を学び、吹田の子どもたちのこれからを一緒に考えます。
●とき：14:00～16:30　●定員：先着40名

ぷちボラ 働きざかりの方や家事・勉学に忙しい方などに、週末や余暇の新しい過ごし方として、「短時間でできる（ぷち）ボランティア活動」のプログラムを提供します。

⇐詳しくはWebで

連載 **私たちの団体・私たちの活動** 第4回

市民公益活動団体インタビュー

吹田子ども支援センター　代表 森本 英之さん

Q 設立の経緯は？

A ２０１３年４月、元教師・市民が中心となり、不登校・発達障害・学力・進路・教育トラブル・貧困や家庭事情などで子育てに悩む親、苦しむ子ども達を支援しようと、千里山に「吹田子ども支援センター」を開設し、活動を開始しました。

Q 具体的な活動内容は？

A 親の相談には、教育経験者や心理士が助言し、医療・福祉・法律等の専門家を含む市民スタッフがサポートしています。
子どもたちには、学習支援や助言を行い、子ども達の居場所「子どもカフェ」を運営しています。

Q 見えてきた課題や今後の展望について

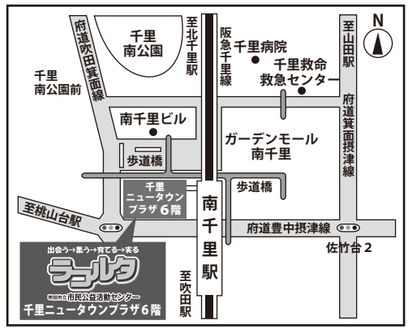
A 活動から見えてきたことは、悩み苦しむ親子の具体的な姿です。その中にあって、貧困と格差の現実も突きつけられています。貧困家庭の子どもは、医療・行政・民間の支援を受ける機会、文化・教育活動に参加する機会が少ないのが現状です。進路選択も範囲が狭くなります。格差社会の現実・貧困の連鎖を日々痛感しています。今、私たち市民が支援ネットワークを拡大していくこと、行政が市民と連携して有効な施策を実施していくことが必要だと思っています。

＜吹田子ども支援センターへのお問い合わせ・連絡先は＞
〒565-0851 吹田市千里山西１-２-７-102　TEL/FAX 06-7493-5581

編集後記 新しくスタッフになりました矢野です。ラコルタはオープンして丸２年になりますが、もっと学生や若い世代にも、ラコルタを利用してもらえたらなぁ、ボランティアを身近に感じてもらえたらなぁ、と思っています。残暑にも負けず、明るく楽しく!吹田のボランティア活動をこれからも応援していきます!　(矢野)

＜発行責任者＞柳瀬真佐子　(五十音順)
＜編集スタッフ＞茨木由美・岩井聰・鍵谷誠一・佐藤和男・春貴勇力・矢野眞里加・李 顥

出会う→集う→育てる→実る
ラコルタ
吹田市立 市民公益活動センター
〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号
千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851
Eメール info@suita-koueki.org
ホームページ http://suita-koueki.org
指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた



若者×ボランティア

～シャカイコウケンでつながるカンケイ～

内閣府の世界青年意識調査（平成21年3月）によると、18～24歳までの日本の青年のボランティア活動は「以前、したことがある」が 43.9%、「現在、活動している」が 5.6%でした。ボランティア活動への興味は「ある」が 56.1%、「ない」が 34.4%。興味がある理由は「困っている人の手助けをしたい」（63.4%）、「いろいろな人と出会いたい」（55.6%）、「新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい」（37.7%）、「地域や社会をよりよくしたい」（33.3%）、「自分のやりたいことを発見したい」（25.5%）の順となっています。このような数値からも、ボランティアに関心を持つ若者は確実にいる一方で、「まったくしたことがない」が 50.4%あり、関心はあるが活動につながっていないという課題が見えてきます。

このようなことからラコルタでは、若者が「社会貢献」や「ボランティア活動」に関心を持ち、活動のきっかけになればと**「シャカイコウケン HANDBOOK」**を今年 3 月に作成し、7 月 6 日（日）には、主に吹田市でボランティア活動をしている高校生・大学生を対象に、**「吹田市学生ボランティア交流会@ラコルタ」**を開催しました。

シャカイコウケン HANDBOOK

ラコルタの
ホームページから
ダウンロード
いただけます!

交流会から見えてきたこと

交流会には、ボランティアを始めたばかりの高校生から、バリバリ活動をしている大学生、これからボランティアをしてみたいと思っている方などを含め、23 名（約 10 団体）の参加がありました。グループワークで、活動を続けてきた中で感じる**「団体の課題」**だけでなく、「シャカイコウケン HANDBOOK」の大学生の座談会でも出ていた、「ボランティアへの敷居が高い」「一緒に活動する仲間をどう増やすか」といった**ボランティアそのものの「価値観」**についての話題も集中し、時間が足りないほど白熱した意見交換が行われました。

まずはゲームで緊張をほぐす！

若者 × ボランティアについて

ラコルタではこうした若者の**「ボランティアに対する価値観」**が、彼らの社会参加における 1 つの課題と捉え、その価値観の変換に向けて、学生団体やボランティアサークルと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

また、ボランティアセンターがある大学は吹田市内で1校だけであり、学内外ともにボランティア活動の**交流の場**がないということもわかりました。

以上のことから、今後も学生ボランティア交流会を継続的に行うことや、教育機関とも連携し、「若者が社会に関心を持ち続けることのできるコミュニティ」の支援・促進をしていきます。

グループワークの様子

活動のキッカケは様々！

交流会の参加者にインタビューしました。

戸塚 亜佑美さん
学 校：関西大学
活動団体：チャレンジャー

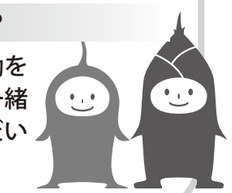
公務員を目指してボランティア活動に：活動をはじめたきっかけは、心理職公務員を目指していて、活動を通じて経験を積んでおきたいなと思ったからです。「チャレンジャー」では、障害者施設や盲学校でのイベントのお手伝いなどをしています。そういった現場で体験できることは実になっているのかなと思います。**交流会に参加して：**大学内のサークル同士でも話したことがあるのですが、ボランティアという言葉自体のハードルはあるのかなと思います。そんなに大そうなことをしているわけじゃないのに、周りからは真面目やなぁと思われたりするのはちょっと複雑な気分。その時は、BBQをやったりとか、新歓の時にもっと工夫ができたらいいよねっていう話をしました。

ラコルタサポーターが大活躍！

今回の交流会では、ラコルタサポーターにグループワークの進行をお手伝いしていただきました！ご協力いただいたサポーターからは、**「学生・行政・NPO などをつなぎ、面白いことができたらなと思いました」**、**「ラコルタを通じて吹田のまちづくりを担う人材が増えてくれたら嬉しいです」**といった今後の交流会の可能性や、学生たちへの期待の声をいただきました。

★ラコルタサポーターとは？

ラコルタが行うイベントや活動を応援し、ボランティアとして一緒にラコルタを盛り上げていただいています。



浅井 悠さん
学 校：大阪学院大学
活動団体：さたけ教室

授業での紹介がきっかけで：教職の授業で先生が、子どもたちへの学習支援を行っている活動を紹介してくださったのがボランティアを始めたきっかけでした。最初はやってみようかなぁという軽い気持ちで参加しましたが、実際にやってみると非常に楽しく、子どもたちからいつも元気とパワーをもらっています。**活動の中での気づき：**私は教師を目指していて、ボランティア活動で子どもたちと出会うまでは学習の支援をすることしか頭にありませんでした。しかし、実際に子どもたちと関わり、学校での出来事など友達感覚で会話をしていくうちに、子ども1人1人の気持ちやその背景を理解することが大切だと学びました。

金木 俊也さん
学 校：大阪大学
活動団体：3･11関西学生ネット阪大

東日本大震災が起きて被災地へ：東日本大震災直後の 2011 年 7 月に当時のサークル代表の呼びかけに応じて被災地へ行ったのをきっかけに、活動を始めました。肉体労働による復興支援をしていましたが、今は関西でできる活動として「希望のひとはりプロジェクト」を立ち上げ、岩手の手芸品を大学祭などで販売しています。**大変だけど楽しい！：**販売する手芸品の材料やデザインを決め、試作品まで作って、被災地の方に商品の製作をお願いしているので、サークルのみんなの手芸スキルがぐんぐん上がった（笑）。手芸が得意な方はぜひ活動に参加してほしいです。

交流会の後、みんなで記念撮影